

令和4年度

教育研究活動等に係るデータ分析による

自己点検・評価報告書

令和5年3月

福井大学

全学内部質保証委員会

目 次

1. 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価の概要・・・	1
2. IR室員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 評価結果（データ分析による自己点検・評価シート）・・・・・・・・	6
別表：分析基本データ集・・・・・・・・・・・・・・・・	15

1. 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価の概要

【実施に当たり】

「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」は、福井大学内部質保証規程（令和3年1月27日 福大規程第1号）第8条の規定に基づき、福井大学全学自己点検・評価実施要項（令和3年3月22日 学長裁定）により実施するものである。

本自己点検・評価は、IR 機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価として、IR 室（経営戦略課）で収集しているファクトブックのデータを分析し、大学の現状も含む教育研究活動等を、毎年度、自己点検・評価するものである。分析するデータは、ファクトブックに収納されたデータの内、①大学の現状等を示す「基本データ」の中から適切なデータ（以下、「分析基本データ」という）、②第4期の教育研究活動等の中心として中期計画の進捗を示す評価指標に相当する「特徴データ」の中から適切なデータ（以下、「分析特徴データ」という）とする。

「分析基本データ」は、基本データの中から、①設置基準等、法令で定められている事項、②法人評価・認証評価で確認が求められる事項、③社会的な要請を含め、大学として目標を定めている事項、④その他、共通指標等の主な事項など、自己点検できるものを精選している（別紙）。その際、データの定義の全学的な統一、関係データの組織的な収集などに十分配慮する。他方、「分析特徴データ」は、第4期中期計画に係る評価指標の中から、全ての定量的な評価指標とする。

データの分析においては、其々のデータにあらかじめ設定した評価基準等（目標値を含む）に基づき、“評価基準等を達成できたか/満たしているか”の観点から自己点検・評価を行う。この自己点検・評価の結果に基づき、必要に応じて、改善に向けた方策等を策定・実施し、改善・向上に資する。「分析基本データ」の評価結果については、その結果を関係部署に提示する。他方、「分析特徴データ」の評価結果については、中期計画の達成に資するものとなる。このように、本自己点検・評価は点検・評価・改善のプロセスを形成しており、全学質保証として機能するものである。そこで、本自己点検・評価は、「教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価」として、全学自己点検・評価の一環として位置付ける。なお、「分析特徴データ」の自己点検・評価は、別途、法人評価対応部会が実施する全学内部質保証の一環とした「中期目標・計画の進捗に係る自己点検・評価」の中で実施する。

第4期中期計画に係る評価指標である「分析特徴データ」については、本年度が第4期中期目標期間1年目であり、令和4年度のデータが確定しておらず、また、「分析基本データ」についても令和4年度の実績データが確定していない。そこで、本年度（令和4年度）の自己点検・評価における評価対象のデータは、「分析基本データ」のうち、5月1日現在および11月1日現在の員数データのみとした。

なお、今回の自己点検・評価の実施に当たり、第4期中期目標期間における評価指標の取扱いが変更されたため、従前に定めた福井大学全学自己点検・評価の実施ガイドライン（令和3年3月22日 全学内部質保証委員会決定）を修正し、具体的には、以下のような実施手順等によって実施した。

【第4期中期目標・計画への関与】

第4期中期目標・計画では、その達成に寄与するものとして、以下をあげている。

中期目標

- 14) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。

中期計画

- 14)-1 エビデンスベースによる法人運営を目指し、IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価を実施し、教育研究活動等の質の改善状況をステークホルダーに分かりやすく発信していく。

評価指標 (達成水準を含むこと)	14-1-A 教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価を毎年度実施し、開示している。
---------------------	---

本自己点検・評価とその結果の公表は、中期計画であげた「IR機能を活用した客観的なデータに基づく自己点検・評価の実施」に相当するものであり、また評価指標の達成に向け、毎年度実施することとしている。

【実施手順等】

(1) 実施体制

分析基本データについて、IR室（経営戦略課）がデータ収集・整理等を、評価担当理事が評価を、IR室員が確認等を実施した。今回分析したデータは別表（分析基本データ集）に示す。

(2) 実施方法

（分析基本データの定義と評価対象データ）

- ①員数群：当該年度5月1日現在の員数データ（当該年度入学者に関する入試データを含む）
- ②実績群：前年度実績データ
- ③員数群-補：当該年度11月1日現在の員数データ
- ④実績群-補：前年度実績のうち追って集計が必要なデータ

本年度は、上記の事由により、①および③の員数群データについて、自己点検・評価を行った。

（分析基本データの自己点検・評価）

- ① 経営戦略課は、分析基本データを収集し、それぞれの評価基準等とともに分析基本データ集として整理した。
- ② 評価担当理事は、上記①のデータを確認し、評価基準等に基づき其々のデータを「データ分析による自己点検・評価シート」を活用して評価する（評点を付す）とともに、必要に応じてコメント及び特記事項（優れている点／改善を要する点）を記載した。

なお、評点は以下の3段階とした

1. 評価基準等を満たしている
2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
3. 評価基準等を満たしていない

③IR 室員は、上記の結果を確認し、必要に応じてコメント、特記事項を記載した。

(3) 自己点検・評価結果等の決定

- ①IR 室（経営戦略課）は、上記自己点検・評価シートを取り纏め、「令和4年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価報告書」を作成・確認し、全学内部質保証委員会に提出した。
- ②全学内部質保証委員会は、自己点検・評価結果等を審議した。
- ③学長は、上記②の自己点検・評価結果等を必要な法定会議の議を経て決定した。

(4) 改善に向けた取組

- ①学長は、決定した自己点検・評価結果等を、教育研究評議会等での審議または報告を通じて周知する。
- ②関係部局等は、上記の自己点検・評価結果等に基づき、改善等を図る。

(5) 評価結果等の公表等

- ①上記(3)-③で評価結果等が決定された後、「令和4年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価報告書」をHP等で公表する。
- ②「令和4年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価報告書」は経営協議会に報告し、学外委員からの意見聴取を行う。

【自己点検・評価実施期間】

本自己点検・評価は、令和4年12月から令和5年2月に実施した。

【評価項目】

別紙「分析基本データ一覧」のとおり。

【各データの基準時】

員数群：令和4年5月1日現在、令和4年10月1日現在

別紙 分析基本データ一覧

分類	基本データ (項目)	粒度	基準等	備考	対象年度	実績 (前年度) / 員数 (今年度)	
教育	1-①	志願者数・受験者数	学部・学科 研究科・課程	過去5年間の平均以上		当該年度5月現在 (春期)	員数群
	1-②	入学定員充足率 ・平均入学定員充足率	学部・学科 研究科・課程	認証評価等の基準	モニタリング項目	当該年度5月現在	員数群
	1-②'					及び11月現在 (秋期)	員数群-補
	1-③	収容定員充足率 (未充足の 状況)	学部・学科 研究科・課程	法人評価等の基準 (90%以上:医・工・教研・ 医研・工研 80%以上:教・国・国研)		当該年度5月現在	員数群
	1-④	収容定員超過率	学部 研究科	法人評価等の基準 (目安:110%)		当該年度5月現在	員数群
	1-⑤	授業外学修時間	全学・学部	第3期末より増 (12.5時間)		前年度	実績群
	1-⑥	標準修業年限内卒業・修了 率	各部局	認証評価等の基準	共通指標 モニタリング項目	前年度	実績群
	1-⑦	標準修業年限×1.5年以内 での卒業・修了率	各部局	認証評価等の基準	モニタリング項目	前年度	実績群
	1-⑧	学位授与数 (博士)	医学系・工学	前年度より増	共通指標	前年度	実績群
1-⑨	就職率	全学・部局	高い水準を維持 (概ね96%前後)	特徴データと重複 (2)-1-B他	前年度	実績群	
研究	2-①	研究論文数 (年間) (教員 当たりの業績数)	全学・学系	第3期平均値より増	共通指標 3年間の平均ではなく、1年 ごとのデータを取り扱う	前年度	実績群-補
	2-②	科研費採択件数・内定金額 (教員当たりの獲得額)	全学・部局	第3期平均値より増	研究推進課から提供のデータ とし、共通指標数値とは異なる 可能性あり	前年度	実績群
	2-③	外部資金獲得状況:総額・ 内訳別総額 (教員当たりの 受託・共同研究受入額)	全学・部局	第3期平均値より増	研究推進課から提供のデータ とし、共通指標数値とは異なる 可能性あり	前年度	実績群
グローバル	3-①	外国人留学生数受入状況	全学	設定した目標値 (第3期の年平均(118名) より増加)	特徴データと重複 (7)-1-A	前年度	実績群
	3-②	海外派遣学生数	全学	設定した目標値		前年度	実績群
教員数	4-①	専任教員数	学部・学科 研究科・課程	設置基準		当該年度5月現在	員数群
	4-②	研究指導・補助教員数	学部・学科 研究科・課程	設置基準		当該年度5月現在	員数群
	4-③	若手教員採用比率	人事で設定した 粒度	人事で策定した目標値 (若手教員の採用比率: 年平均60%以上)	「福井大学における教員の 総合的な人事計画」に 掲げる目標値 (この計画にお ける若手教員:当該年度の年度末 における年齢が40歳未満の者)	前年度	実績群
	4-④	女性教員比率	人事で設定した 粒度	人事で策定した目標値 (R8年度末までの目標値: 22%以上)	「福井大学一般事業主行 動計画」に掲げる目標値	当該年度5月現在	員数群

2. IR室員一覧

令和4年4月1日

	役職・所属	氏名	備考
室長	理事（教育・評価担当）副学長	安田 年博	
副室長	参与（特命職員）	窪田 昭一	
室員	学長補佐（工学部 教授）	山田 徳史	（主に教育・評価担当）
	学長補佐（医学部 教授）	定 清直	（主に研究担当）
	学長補佐（工学部 教授）	小嶋 啓介	（主に社会貢献担当）
	副学長（工学部 教授）	明石 行生	（主にグローバル担当）
	教育学部 教授	澁谷 政子	（主に人文社会領域担当）
	経営戦略課 評価 IR 主幹	西 弥生	全学 IR
	経営戦略課 課長補佐	林 大剛	全学 IR
	財務課 主査	田中 泰子	財務 IR
	教務課 主査	安本 聖司	教学 IR
	松岡キャンパス学務課 主査	嶋田 真人	教学 IR
	研究推進課 主査	古市 康博	研究 IR
松岡キャンパス研究推進課 主査	中辻 圭恵	研究 IR	

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日

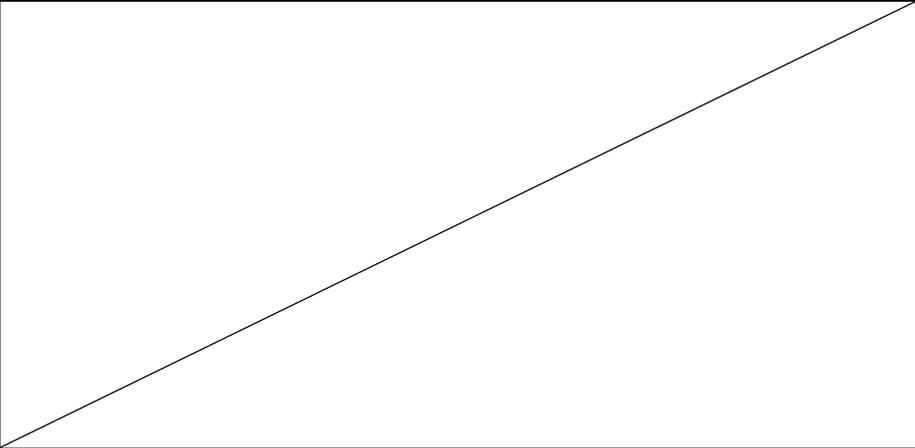
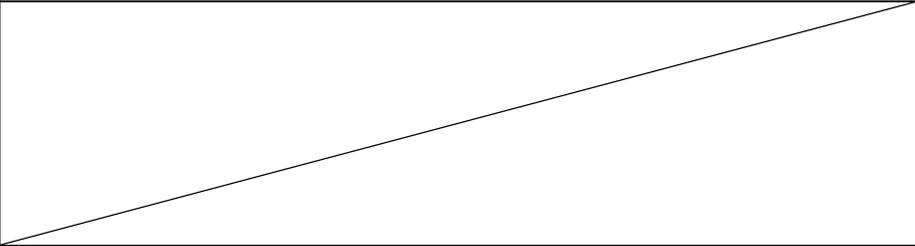
3. 評価結果（データ分析による自己点検・評価シート）

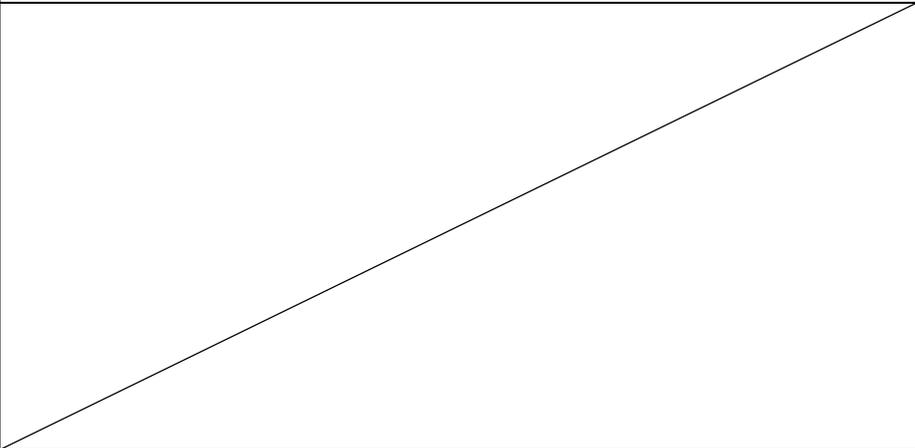
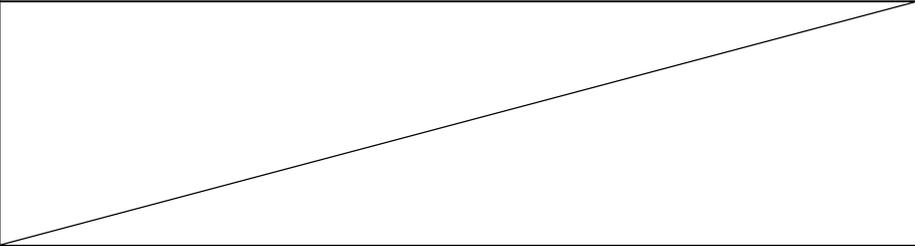
令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教育
基本データ項目：	1-① 志願者数・受験者数 (春期)
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない 工学部（機械・システム工学科、建築・都市環境工学科、物質・生命化学科、応用物理学科）、国際地域学部（国際地域学科）、医学系研究科（統合先進医学専攻）、工学研究科（総合創成工学専攻）、国際地域マネジメント研究科（国際地域マネジメント専攻）が、志願者数及び受験者数とも基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準等を満たさない部局等については、志願者増に向けた改善が求められる。
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教育
基本データ項目：	1-② 入学定員充足率・平均入学定員充足率 (春期)
点検・評価結果	
評点	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない
コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	医学系研究科(統合先進医学専攻)及び工学研究科(総合創成工学専攻)が、入学定員充足率及び平均入学定員充足率とも基準を満たしていない。しかしながら、1-②‘に示すように、後者は秋入学を加えると基準を満たしている。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、評価基準を満たさない部局等については、秋入学に係らず、入学定員確保に向けた改善が求められる。なお、国際地域マネジメント研究科においても、基準値に近い入学定員充足率であり、定員の確保をお願いしたい。
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教育
基本データ項目：	1-②' 入学定員充足率・平均入学定員充足率 (秋入学含む)
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない 医学系研究科 (統合先進医学専攻) が、入学定員充足率の基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、医学系研究科 (統合先進医学専攻) については、平均入学定員充足率は満たしているが、入学定員充足率について、毎年度の定員確保に向けた改善が求められる。
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教育
基本データ項目：	1-③ 収容定員充足率（未充足の状況）
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	2. 一部の部局で、評価基準等を満たしていない 連合教職開発研究科（教職開発専攻）が、収容定員充足率の基準を満たしていない。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	上記により、連合教職開発研究科（教職開発専攻）については、収容定員の充足に向け、定員確保に向けた改善が求められる。
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数一補)	
分類：	教育
基本データ項目：	1-④ 収容定員超過率
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	1. 評価基準等を満たしている 
特記事項	
優れている点 改善を要する点	 工学研究科においては、基準は満たしているものの、定員超過率の上限に近く、定員の管理に配慮いただきたい。
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教員数
基本データ項目：	4-① 専任教員数
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	1. 評価基準等を満たしている 
特記事項	
優れている点 改善を要する点	 特になし
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教員数
基本データ項目：	4-② 研究指導・補助教員数
点検・評価結果	
評点 1. 評価基準等を満たしている	
コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	特になし
備考	

令和 4 年度 データ分析による自己点検・評価シート (基本データ：当該年度員数)	
分類：	教員数
基本データ項目：	4-④ 女性教員比率
点検・評価結果	
評点 コメント (評点が「2」、 「3」の場合)	3. 評価基準等を達成していない 全学における女性教員比率が 21.3%となり目標値(22%以上)に達していないので、引き続き女性教員比率を向上させるための取組が求められる。 なお、教育・人文社会系部門においては、女性教員比率が 25.8%と目標値を上回っているものの、昨年及び一昨年と比較すると女性教員比率が減少傾向である。
特記事項	
優れている点	
改善を要する点	国立大学法人福井大学一般事業主行動計画(令和4年4月1日～令和9年3月31日)の期間内での達成に向けて、引き続き女性教員比率向上の取組が求められる。
備考	

分析基本データ集 1 - ①志願者数・受験者数（春期）



年度	志願者数・受験者数			
	学部・研究科	学科・専攻	志願者数	受験者数
<input checked="" type="radio"/> 2022				
<input type="radio"/> 2021				
<input type="radio"/> 2020	教育学部	学校教育課程	543	365
<input type="radio"/> 2019	医学部	医学科	886	358
<input type="radio"/> 2018	医学部	看護学科	251	198
<input type="radio"/> 2017	工学部	機械・システム工学科	578	329
<input type="radio"/> 2016	工学部	電気電子情報工学科	609	336
<input type="radio"/> 2015	工学部	建築・都市環境工学科	311	206
	工学部	物質・生命化学科	353	204
	工学部	応用物理学科	112	55
	国際地域学部	国際地域学科	242	143
	連合教職開発研究科	教職開発専攻	60	60
	医学系研究科	看護学専攻	13	13
	医学系研究科	統合先進医学専攻	11	11
	工学研究科	産業創成工学専攻	123	122
	工学研究科	安全社会基盤工学専攻	99	98
	工学研究科	知識社会基礎工学専攻	114	114
	工学研究科	総合創成工学専攻	12	12
	国際地域マネジメント研究科	国際地域マネジメント専攻	7	6
	合計		4324	2630

種別

- 学部
- 大学院

入学時期

- 4月

目標値（過去5年間の平均）			
学部・研究科	学科・専攻	志願者数（過去5年平均）	受験者数（過去5年平均）
教育学部	学校教育課程	390.6	257.2
医学部	医学科	739.8	356.0
医学部	看護学科	182.6	134.8
工学部	機械・システム工学科	622.2	361.0
工学部	電気電子情報工学科	526.6	314.4
工学部	建築・都市環境工学科	342.4	217.4
工学部	物質・生命化学科	418.0	266.6
工学部	応用物理学科	300.0	146.4
国際地域学部	国際地域学科	245.6	144.8
連合教職開発研究科	教職開発専攻	46.8	46.8
医学系研究科	看護学専攻	10.4	10.2
医学系研究科	統合先進医学専攻	17.2	17.2
工学研究科	産業創成工学専攻	95.0	95.0
工学研究科	安全社会基盤工学専攻	91.0	91.0
工学研究科	知識社会基礎工学専攻	102.5	102.0
工学研究科	総合創成工学専攻	16.8	16.8
国際地域マネジメント研究科	国際地域マネジメント専攻	8.0	8.0
合計		4202.6	2630.4

※「志願者数（過去5年平均）」及び「受験者数（過去5年平均）」について、設置後5年未満の学部・研究科等においては、設置後の各年度実績の平均（5年未満の平均）により計算。

分析基本データ集 1 - ②入学定員充足率・平均入学定員充足率（春期）



年度	入学定員充足率・平均入学定員充足率				
	学部・研究科	入学定員	入学者数	入学定員充足率	平均入学定員充足率
● 2022	▲				
○ 2021	教育学部	100	110	110.0%	104.6%
○ 2020	学校教育課程	100	110	110.0%	104.6%
○ 2019	医学部	170	174	102.4%	101.8%
○ 2018	医学科	110	110	100.0%	100.4%
○ 2017	看護学科	60	64	106.7%	104.3%
○ 2016	工学部	525	538	102.5%	103.2%
○ 2015	機械・システム工学科	155	161	103.9%	103.2%
	電気電子情報工学科	125	130	104.0%	103.2%
	建築・都市環境工学科	60	65	108.3%	105.7%
	物質・生命化学科	135	135	100.0%	102.1%
	応用物理学科	50	47	94.0%	102.8%
	国際地域学部	60	63	105.0%	105.7%
	国際地域学科	60	63	105.0%	105.7%
	合計	855	885	103.5%	103.2%

種別

● 学部

入学時期

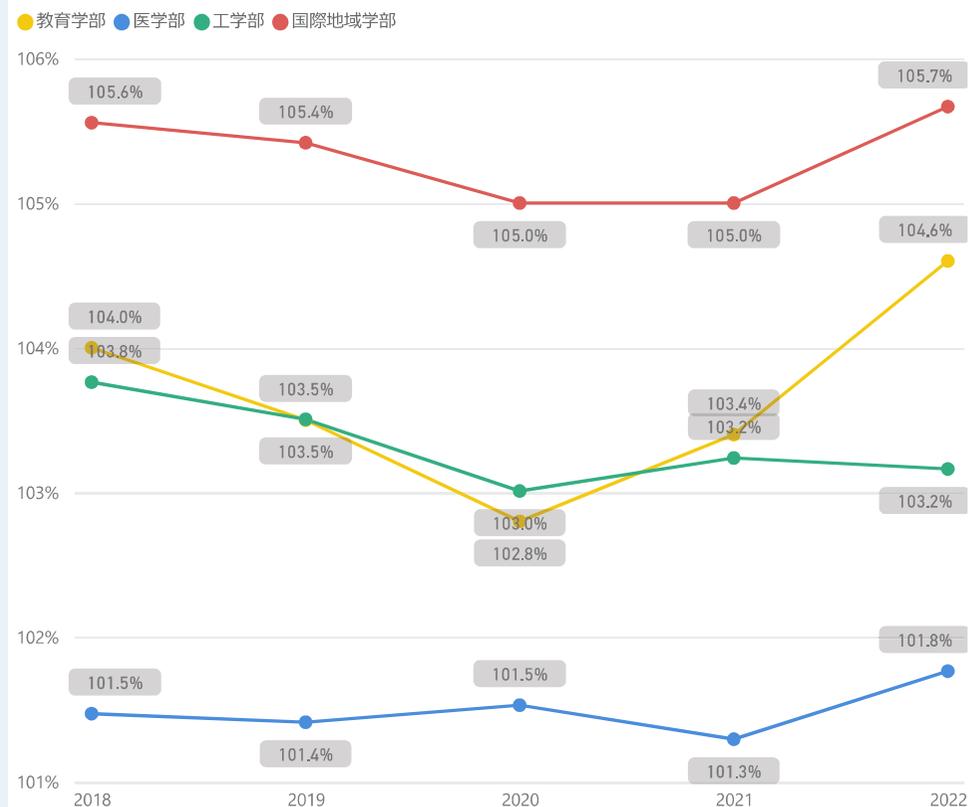
☑ 4月

目標値

入学定員充足率 **70%以上 130%未満**

平均入学定員充足率※ **70%以上 130%未満** ※当年度を含む過去5年の平均

【参考】平均入学定員充足率の推移



分析基本データ集 1 - ②入学定員充足率・平均入学定員充足率（春期）



年度	入学定員充足率・平均入学定員充足率				
	学部・研究科	入学定員	入学者数	入学定員充足率	平均入学定員充足率
● 2022	▲				
○ 2021					
○ 2020	連合教職開発研究科	60	57	95.0%	92.3%
○ 2019	教職開発専攻	60	57	95.0%	92.3%
○ 2018	医学系研究科	37	24	64.9%	67.0%
○ 2017	看護学専攻	12	13	108.3%	81.7%
○ 2016	統合先進医学専攻	25	11	44.0%	60.0%
○ 2015	工学研究科	275	311	113.1%	107.2%
	産業創成工学専攻	85	111	130.6%	114.5%
	安全社会基盤工学専攻	84	90	107.1%	104.8%
	知識社会基礎工学専攻	84	98	116.7%	113.9%
	総合創成工学専攻	22	12	54.5%	58.2%
	国際地域マネジメント研究科	7	5	71.4%	100.0%
	国際地域マネジメント専攻	7	5	71.4%	100.0%
	合計	379	397	104.7%	100.5%

種別

● 大学院

入学時期

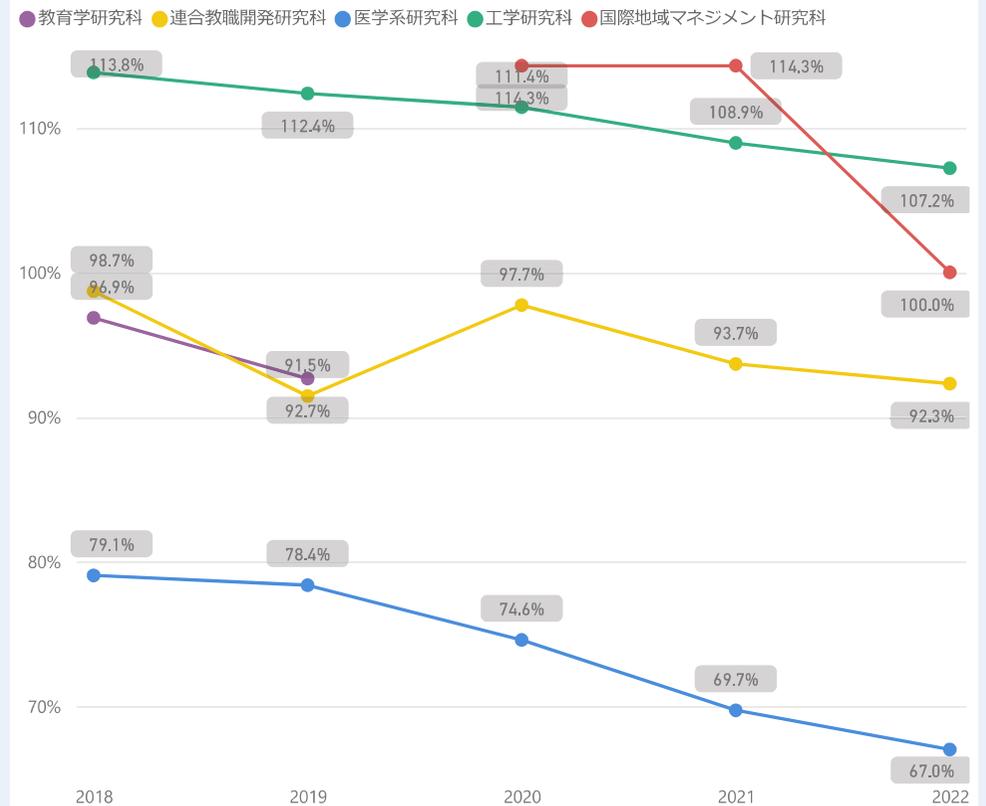
☑ 4月

目標値

入学定員充足率 **70%以上130%未満**

平均入学定員充足率※ **70%以上130%未満** ※当年度を含む過去5年の平均

【参考】平均入学定員充足率の推移



分析基本データ集 1 - ②'入学定員充足率・平均入学定員充足率（秋入学含む）



年度	入学定員充足率・平均入学定員充足率				
	学部・研究科	入学定員	入学者数	入学定員充足率	平均入学定員充足率
● 2022	▲				
○ 2021					
○ 2020	連合教職開発研究科	60	57	95.0%	92.3%
○ 2019	教職開発専攻	60	57	95.0%	92.3%
○ 2018	医学系研究科	37	28	75.7%	84.3%
○ 2017	看護学専攻	12	13	108.3%	81.7%
○ 2016	統合先進医学専攻	25	15	60.0%	85.6%
○ 2015	工学研究科	275	324	117.8%	111.3%
	産業創成工学専攻	85	111	130.6%	114.9%
	安全社会基盤工学専攻	84	91	108.3%	106.0%
	知識社会基礎工学専攻	84	100	119.0%	115.5%
	総合創成工学専攻	22	22	100.0%	97.3%
	国際地域マネジメント研究科	7	5	71.4%	100.0%
	国際地域マネジメント専攻	7	5	71.4%	100.0%
	合計	379	414	109.2%	105.1%

種別

● 大学院

入学時期

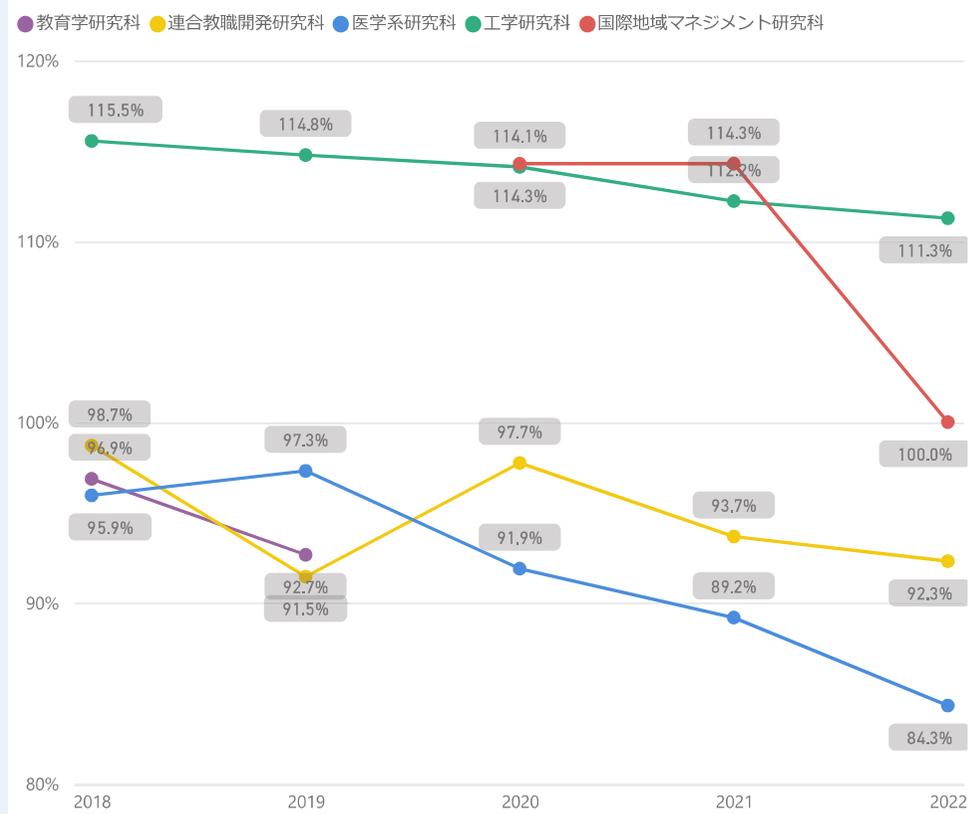
☑ 4月

☑ 10月

入学定員充足率 **70%以上 130%未満**

平均入学定員充足率※ **70%以上 130%未満** ※当年度を含む過去5年の平均

【参考】平均入学定員充足率の推移



分析基本データ集 1 - ③ 収容定員充足率

年度	収容定員充足率（学部・研究科、学科・専攻別）			
● 2022	学部・研究科	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
	教育学部	400	427	106.7%
	学校教育課程	400	427	106.7%
	教育地域科学部		1	0.0%
	地域科学課程		1	0.0%
	医学部	925	953	103.0%
	医学科	685	701	102.3%
	看護学科	240	252	105.0%
	工学部	2,180	2,334	107.0%
	機械・システム工学科	640	686	107.1%
	電気電子情報工学科	540	589	109.0%
	建築・都市環境工学科	260	276	106.1%
	物質・生命化学科	540	562	104.0%
	応用物理学科	200	217	108.5%
	機械工学科		1	0.0%
	電気・電子工学科		1	0.0%
	生物応用化学科		2	0.0%
	国際地域学部	240	263	109.5%
	国際地域学科	240	263	109.5%
	合計	3,745	3,978	106.2%

収容定員充足率（課程別）			
課程区分	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
▲ 学士課程	3,745	3,978	106.2%

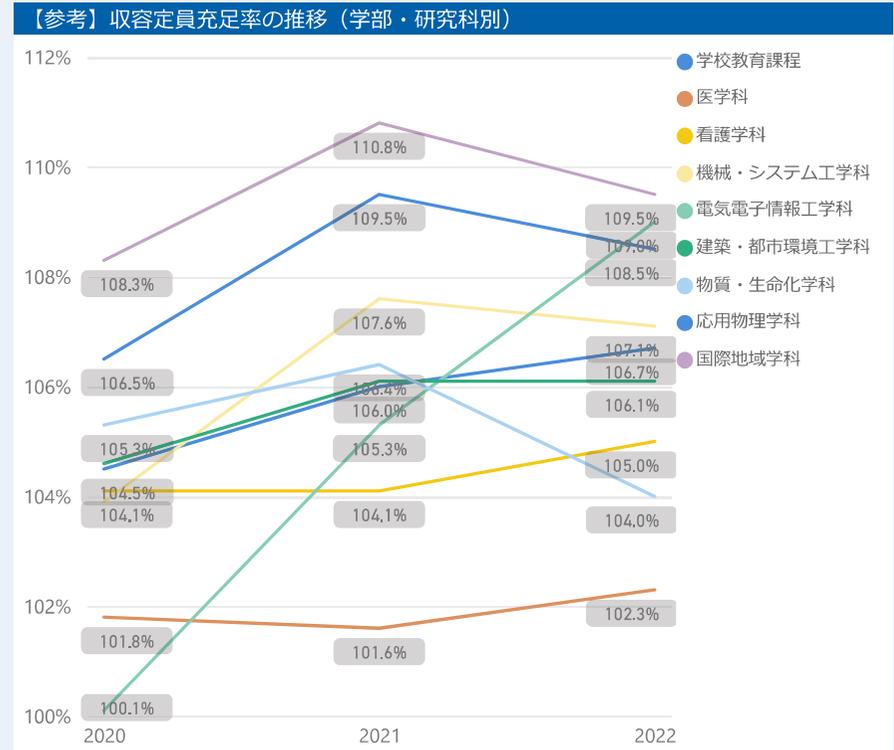
目標値

収容定員充足率

教育学部・国際地域学部・国際地域マネジメント研究科：**80%以上**

医学部・工学部・連合教職開発研究科・医学系研究科・工学研究科：**90%以上**

※第4期中期目標期間の業務実績評価（令和4年4月1日～令和8年3月31日）



分析基本データ集 1 - ③ 収容定員充足率

年度	収容定員充足率（学部・研究科、学科・専攻別）			
● 2022	学部・研究科	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
	教育学研究科		1	0.0%
	学校教育専攻		1	0.0%
	連合教職開発研究科	120	98	81.6%
	教職開発専攻	120	98	81.6%
	医学系研究科	124	176	141.9%
	看護学専攻	24	29	120.8%
	先端応用医学専攻		4	0.0%
	統合先進医学専攻	100	143	143.0%
	工学研究科	572	674	117.8%
	産業創成工学専攻	170	206	121.1%
	安全社会基盤工学専攻	168	180	107.1%
	知識社会基礎工学専攻	168	204	121.4%
	建築建設工学専攻		1	0.0%
	原子力・エネルギー安全工学専攻		1	0.0%
	総合創成工学専攻	66	82	124.2%
	国際地域マネジメント研究科	14	15	107.1%
	国際地域マネジメント専攻	14	15	107.1%
	合計	830	964	116.1%

収容定員充足率（課程別）

課程区分	収容定員（人）	収容数（人）	定員充足率（%）
修士課程	530	622	117.3%
専門職学位課程	134	113	84.3%
博士課程	166	229	137.9%

目標値

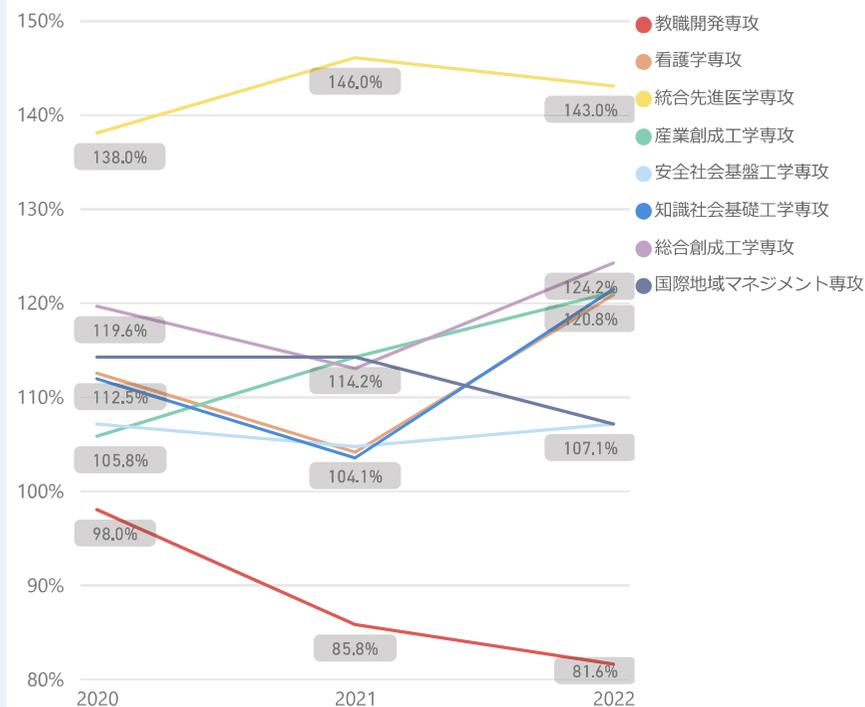
収容定員充足率

教育学部・国際地域学部・国際地域マネジメント研究科：**80%以上**

医学部・工学部・連合教職開発研究科・医学系研究科・工学研究科：**90%以上**

※第4期中期目標期間の業務実績評価（令和4年4月1日～令和8年3月31日）

【参考】収容定員充足率の推移（学部・研究科別）



分析基本データ集 1 - ④ 収容定員超過率



年度	収容定員超過率												
● 2022	学部・研究科	収容定員 (A)	収容数 (B)	外国人留学生数 (C)	(C)のうち国費留学生数 (D)	(C)のうち外国政府派遣留学生数 (E)	休学者数 (G)	留年者数 (H)	(H)のうち、修業年限を超える在籍期間が2年以内の者の数 (I)	長期履修学生数 (J)	長期履修学生に係る控除数 (K)	超過率算定の対象となる在学者数 (L) 【(B)-(D,E,G,I,Kの合計)】	定員超過率 (M) 【(L)/(A)×100】
▲	教育学部	400	427				4	8	6			417	104.3%
	教育地域科学部		1					1				1	0.0%
	医学部	925	953				11	27	22			920	99.5%
	工学部	2,180	2,334	45	3	26	36	122	87			2,182	100.1%
	国際地域学部	240	263	9		5	13	17	10			235	97.9%
	教育学研究科		1	1				1	1			0	0.0%
	連合教職開発研究科	120	98	1	1		1			11	3	93	77.5%
	医学系研究科	124	176				27	74	25	11	2	122	98.4%
	工学研究科	572	674	48	4		19	43	25	5	1	625	109.3%
	国際地域マネジメント研究科	14	15	2			2	2				13	92.9%

目標値

収容定員超過率 **110%未満**

※第4期中期目標期間の業務実績評価（令和4年4月1日～令和8年3月31日）

分析基本データ集 4-①専任教員数、4-②研究指導・補助教員数

年度

● 2022

○ 2021

【学部】専任教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	専任教員計	うち教授
教育学部	学校教育課程	39	17
医学部	医学科	216	42
医学部	看護学科	27	7
工学部	機械・システム工学科	38	16
工学部	電気電子情報工学科	32	15
工学部	建築・都市環境工学科	18	6
工学部	物質・生命化学科	35	15
工学部	応用物理学科	17	11
国際地域学部	国際地域学科	22	10

【大学院】専任教員数（研究指導教員数、研究指導補助教員数）

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	専任教員計	研究指導教員計	うち教授	研究指導補助教員計	授業担当教員
医学系研究科	修士課程看護学専攻	18	10	7	8	0
医学系研究科	博士課程統合先進医学専攻	108	40	40	68	0
工学研究科	博士前期課程産業創成工学専攻	41	37	22	4	0
工学研究科	博士前期課程安全社会基盤工学専攻	54	50	23	4	0
工学研究科	博士前期課程知識社会基礎工学専攻	63	60	32	3	0
工学研究科	博士後期課程総合創成工学専攻	136	110	77	26	0

【専門職大学院】専任教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	専任教員計	うち教授	うち実務家教員	実務家教員のうちみなし専任	学部の専任を兼ねる教員
連合教職開発研究科	専門職学位課程(教職大学院の課程)教職開発専攻	25	13	13	2	0
国際地域マネジメント研究科	専門職学位課程国際地域マネジメント専攻	15	11	6	2	9

【学部】設置基準上の必要教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	うち教授
教育学部	学校教育課程	10	5
医学部	医学科	140	30
医学部	看護学科	12	6
工学部	機械・システム工学科	11	6
工学部	電気電子情報工学科	10	5
工学部	建築・都市環境工学科	8	4
工学部	物質・生命化学科	10	5
工学部	応用物理学科	8	4
国際地域学部	国際地域学科	12	6

【大学院】設置基準上の必要教員数（研究指導教員数、研究指導補助教員数）

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	研究指導教員	うち教授	研究指導補助教員
医学系研究科	修士課程看護学専攻	12	6	4	6
医学系研究科	博士課程統合先進医学専攻	60	30	20	30
工学研究科	博士前期課程産業創成工学専攻	13	13	9	0
工学研究科	博士前期課程安全社会基盤工学専攻	12	12	8	0
工学研究科	博士前期課程知識社会基礎工学専攻	12	12	8	0
工学研究科	博士後期課程総合創成工学専攻	8	8	6	0

【専門職大学院】設置基準上の必要教員数

学部／研究科	課程・学科／課程・専攻	必置教員数	うち教授	うち実務家教員	みなし専任の上限	学部の専任を兼ねる教員の上限
連合教職開発研究科	専門職学位課程(教職大学院の課程)教職開発専攻	15	8	6	4	12
国際地域マネジメント研究科	専門職学位課程国際地域マネジメント専攻	11	6	4	3	9

分析基本データ集 4-④女性教員比率



年度	男女別教員数、女性教員比率				
	部門等	男	女	合計	女性教員比率
● 2022	教育・人文社会系部門	72	25	97	25.8%
○ 2021	教員養成領域	52	19	71	26.8%
○ 2020	総合グローバル領域	20	6	26	23.1%
○ 2019	医学系部門	221	84	305	27.5%
○ 2018	医学領域	118	22	140	15.7%
○ 2017	看護学領域	3	24	27	88.9%
○ 2016	医学領域（附属病院部）	100	38	138	27.5%
○ 2015	工学系部門	133	7	140	5.0%
○ 2014	工学領域	133	7	140	5.0%
○ 2013	先進部門	33	5	38	13.2%
○ 2012	附属国際原子力工学研究所	9	0	9	0.0%
○ 2011	高エネルギー医学研究センター	4	0	4	0.0%
○ 2010	遠赤外領域開発研究センター	11	1	12	8.3%
○ 2009	子どものこころの発達研究センター	6	4	10	40.0%
○ 2008	繊維マテリアル研究センター	3	0	3	0.0%
○ 2007	基盤部門	19	8	27	29.6%
○ 2006	産学官連携本部	6	0	6	0.0%
○ 2005	ライフサイエンス支援センター	2	0	2	0.0%
○ 2004	高等教育推進センター	1	0	1	0.0%
	語学センター	4	4	8	50.0%
	キャリアセンター		1	1	100.0%
	データ科学・AI教育研究センター	1	0	1	0.0%
	地域創生推進本部	3	0	3	0.0%
	総合情報基盤センター	1	0	1	0.0%
	保健管理センター	1	3	4	75.0%
	合計	478	129	607	21.3%

目録

女性教員在職比率 22%以上

※国立大学法人福井大学一般事業主行動計画（令和4年4月1日～令和9年3月31日）

【参考】部門別女性教員比率の推移

